

代 表 者

林
田

行 政 視 察 及 び 研 修 報 告 書

令和7年11月7日

会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

林田 浩秋
梶山 政孝
片岡 慶行
佐伯 航一郎
田中 みわ子

次のとおり行政視察及び研修参加したので報告します。

1. 視察期日

令和7年10月29日（水）～令和7年10月31日（金）

2. 調査項目

大阪府高槻市	安満遺跡公園の視察
福井県福井市	中核市サミット 2025in 福井
大阪府八尾市	みせるばやおの視察

3. 参加議員

林田 浩秋 梶山 政孝 片岡 慶行 佐伯航一郎 田中 みわ子

4. 随行者

なし

大阪府高槻市

■調査項目

安満遺跡公園について

・調査対応者

街にぎわい部 歴史にぎわい推進課 課長 戸田 勝美
街にぎわい部 歴史にぎわい推進課 主幹 藤井 敏温
街にぎわい部 歴史にぎわい推進課 主査 上田 一暁
議会事務局 庶務チーム 丸木 ひかる

・調査期日

令和7年10月29日（水）午後2時から午後4時

・高槻市の概要（令和7年9月末時点）

人口：約34万人 面積105.29km² 世帯数：約16万6千世帯

・調査目的

呉市の音戸の瀬戸公園整備に向けて、まちににぎわいをもたらす公園の在り方を学ぶこととした。

安満遺跡公園は、単なる公園という遊び場でなく、弥生時代の歴史・遺産を生かし、新たな時代を創る緑空間を贅沢に生かした方向に進むという、全世代に開かれた公園と言われている。安満遺跡公園を視察することにより、呉市における公園のまちづくりを考える。

・調査内容

【高槻市からの説明】

高槻市は、関西中央部にあり JR京都から12分、JR大阪から15分程度の位置にあり利便性の面で優れている。

高槻城跡に整備された高槻城公園は、城下町としてなごりのあるエリアであるが、芸術文化劇場の一体化をめざし、令和8年度末に再整備を始める予定である。今城塚古墳は、日本で唯一自由に歩き回れる6世紀前半の大王墓があり人気がある。近くに森林と奇岩や断崖がある名勝地の摂津峡公園もある。さらに、高い石垣や水堀の無い摂津の国最大の眺

望良好な山城芥川城跡もある。

また、6年連続で「王将戦」が誘致され、「名人戦」も開催された将棋のまちとしても有名である。

安満遺跡公園は、2021年3月に全面オープンした高槻のセントラルパークであり、阪急「高槻市駅」から徒歩10分、JR「高槻駅」から徒歩13分と交通の便が良く、甲子園球場5個分の広さで国宝級の公園である。

国史跡安満遺跡に指定される重要な大規模遺跡公園の理念を市民生活の発展と市民文化醸成の拠点としていること、高槻市民と共有公園として市民とともに育て続ける。

安満遺跡公園の設置に当たり京都大学の移転についての経過は次の表の通りである。

〔安満遺跡公園の経過〕

年月	概要
平成21年9月 平成26年3月	京大農場移転の覚書（京都大学・高槻市・UR） 公園整備構想の策定 ・アンケート調査（2,000人） ・説明会 オープンハウス ・学識経験者による検討委員会 ・公募市民によりワークショップ 等
平成26年～	公園設計に着手 市民活動プロジェクト 始動
平成26年11月	公園の都市計画決定・告示
平成28年～	公園工事に着手
平成29年～	安満人倶楽部 発足
平成31年3月	一次オープン（約4.1ha）
令和3年3月	全面オープン（約22ha）

京都大学の遺跡研究のことも重要であり、土地の掘り起こしなど現在でも神経を使っている。

安満遺跡公園には、防災公園街区整備事業（UR）史跡事業（市文化財部局）があり、近隣には、高槻子ども未来館（市子ども部局）もあり、まさに理念通り市民共有の高槻市のシンボルである。

指定管理者制度を導入（8,137.7万円/年）し、パートナーズ構成員を決め、民間のノウハウやアイデアを生かした魅力的なイベントやプログラムを企画・誘致することとした。市民代表・公園管理者・高槻市・学識経験者・企業が集まり「魅力アップミーティング」を定期的に行い、公園を進化させ、来園者に楽しんでもいただくとしている。

加えて、市民とともに育て続ける公園ということで、市民のメンバーが参画して市民活動プロジェクトを立ち上げ「安満人倶楽部」（あまんどくらぶ）として2017年に発足した。

現在 110 名の会員が、各テーマに分かれて活動しており、多くのイベント数に多くの参加者も多いが、無料で開催している。

さらに、安満遺跡公園は、年間 400 を超える多様なイベントを開催しているが、その参加者数は増えている。公園の特徴は環境を整えることを基本に、公園は創って育てていくものとし、5 つの目標像を、①市民とともに育て続ける②地域防災力の創生③歴史資産の保全・活用④成熟化社会に向けた場⑤みどり豊かな景観・環境として深化させていくと定めた。それらの提案によって設置許可、さらに、公園内の 4 施設にネーミングライツを取り入れ、施設整備に充てられた。

【質疑応答】

天然芝などの維持管理はどうなっていますか。

(回答)

天然芝の維持管理は、指定管理者が行っていますが、年間 400 件以上のイベントがあり生育していないエリアがあります。

大屋根の管理は、数年に 1 回の法定点検など指定管理者が行っています。

物販や飲食施設などを含めた公園のマネジメントについて教えてください。

(回答)

公園内のマネジメントは、指定管理業務として安満遺跡公園パートナーズが担っています。より魅力的な公園となるよう 2 か月に 1 回、指定管理者や民間店舗、市民活動組織安満人倶楽部、市で「魅力アップミーティング」を開催し、課題の共有や事業者間の連携を行っています。

ゴーネルンドの概要、利用状況、利用者の声など聞かせてください

(回答)

概要は、都市公園法第 5 条に基づく管理許可により、パークセンター内に施設を運営されています。利用状況は、令和 6 年度は大人と子ども合わせて 76,180 人の利用者です。利用者の声としては、『プレイリーダーと一緒に遊び体験ができ学びになる』『他のあそび場より広くパークセンターも含めて過ごしやすい』など好評をいただいています。

せせらぎ（東西）の利用状況は正確な数値は把握していないものの、せせらぎの飛び石を親子で渡ったり、せせらぎをのぞき込んだりする様子はよく見かけます。

安全管理については、これまで事故が起きたことがありませんので特段の安全管理はしていません。

【呉市での展開の可能性】

安満遺跡公園は、高槻市職員のリーダーシップがあり、特色あるまちづくりの理念が生かされ、成功に結びついていると思う。また、市側の関わり方に市民を巻き込んでいくことによって、市民の愛着も生まれ、広がりにもつながっていったと感じた。

呉市職員が、生き生きと関わっていくことは、大切な要素である。市民を中心に企業や有識者、若者をエネルギーとする組織を作り、集まる回数を増やしていくことによって人のつながり、広がりを作っていく職員に期待したい。

- ・天候に左右されない施設をアピールする建物があれば、家族が集まる。
- ・寄付によるベンチに寄付者の名前やメッセージプレートにより身近なものとする。
- ・自動販売機は、アニメや本ぬいぐるみなどを置き収入源にする。
- ・駐車料金を徴収して施設の整備に充てる。

(視察の様子)



■調査項目

「中核市サミット 2025in 福井」

・調査対応者

「基調講演」

講師 東京大学社会科学研修所 教授 宇野 重規 氏

「パネルディスカッション」

第1会場；富山市市長、西宮市市長、福井市市長

第2会場；岐阜市市長、豊田市市長、松江市市長

第3会場；山形市市長、八王子市市長、吹田市市長

・調査期日

令和7年10月30日（木）午後0時45分から午後4時25分

・調査目的

現在、呉市は人口減少や少子高齢化が急速に進行しており、財政基盤の縮小や地域経済の停滞など多くの課題に直面している。また、空き家も多く、人口減少に加えてコミュニティの担い手不足や孤立の問題が深刻である。

呉市議会は、未来を見据えて、「何ができるか」、「何をしなければならないか」などの課題に対して、まちの未来を育む必要がある。そのため、誰もが「このまちに住んでよかった」と実感できるまちづくりが必要である。

全国から市議会議員が集まる「幸福を実感できる中核市サミット」で研修することによって、呉市議会にできること、しなければならないことを明確にして、市民の幸福と感ずるまちづくりをすることを目的とする。

・調査内容

【基調講演】

演題 「地域から新しい日本をつくる」～中核市に何ができるか～

講師 東京大学社会科学研修所 教授 宇野 重規 氏

2006年に希望について社会学者が「希望は心の持ちようではない」ということを発言した。その後、東日本大震災の釜石の災害を検証していく過程で、要因は多くあるが、挫折経験から未来に向かって希望が生まれるのであるという思いに至った。

15年前、希望学の中で民主主義は、地域にある。地方自治こそ幸福学の実験の宝庫であると確信した。

2011年から福井市は幸福度ナンバー1とされていたが、東日本大震災の釜石に学ぶ

中で、地域がどうあるべきかを再考する必要があると確認した。地域から新しい日本をつくるという大きな目標ができた。

2014年に「益田レポート」で2040年までに「消滅可能性都市」に関するレポートが発表され地方自治の取り組みがさらに本格化した。

人口減少が進む中、今後の課題として・人口減少地域を災害が襲う・災害の復旧・復興の基本方針・巨大化する東京の災害・他市社会（相続と空き家の激増）などがあげられる。

今後、複数後に居住することが当たり前になり、副業兼業で社会貢献したり、住民票・税制を含め全体的な改革の必要性、ふるさと納税の在り方も検討されるようになると言われている。

土地は所有から利用へとなるであろう。空き地、空き家、放置山林等多くの問題があるが、国と自前主義の地方自治の弊害などの是正によって互いの肯定感が生まれる。

DXは、デジタル化ではなくユーザー中心にする行政機構の変革であり、政策の起点を「つくる側」から「受け取る側」への転換していくため、「変動・不確実・複雑性・曖昧性」への適応などを本質と考えるために、自治には必要である。

また、問題解決にはデザイン思考が重要であり、決定は、多様な地域課題を皆で書き込んでいき、話し合い方向性を見つけていくものとする。。

民主主義できめることは、・東京一極集中の是非・経済的効率か、国土の保全か、個人の選択か、所有から利用へそれぞれの地域の未来像である。

地域生活圏である中核市の新たな役割は、皆で共有されて未来を創っていくことになる。

一人ひとりの想いや考えを紡ぎ、希望あふれるまちづくりにより、幸福を実感できる中核市の実現こそが民主主義であり、政治だと言える。

【パネルディスカッション】

『第1会場』 スポーツを通じた楽しいまちづくり

〈コーディネーター〉 吉村 朋矩（福井工業大学 工学部 建築土木工学科 教授）

〈コーディネーター〉 小原 爽子（（株）日本経済研究所 執行役員

公共デザイン本部副部長兼インフラ部長）

〈パネリスト〉 藤井 裕久（富山市市長）

石井 登志郎（西宮市市長）

西行 茂（福井市市長）

(藤井)

立地や交通の便を基本に、スポーツを活かしてまちづくりを進める。

- ① スポーツと芸術・グルメを合わせ、健康づくりにつなぐとして「おわら風の盆」「富山ガラス美術館」「富山のすし」をセットでアピールした。ニューヨーク・タイムズ「2025年に行くべき52か所」選定された。
- ② 富山市総合体育館を、室伏スポーツ長官と意見交換をしながら、日本初のスキームを取り入れ建設した。(事業費80億円：期間15年)
- ③ 駅北エリアでは「富山グラウジーズ×民間」と連携活動を推進した。試合やアンバサダーの募集イベント、プロトの交流など多くの活動が賑わいをもたらしている。

これらの活動は、それぞれの地域で個人、団体と連携し、既存の施設を活用したり、官民連携することで資金も抑えられる。

また、交通を基盤にスポーツ環境の整備によって交流人口増の効果をはかる。

(石井)

スポーツを通じた 楽しいまちづくり

スポーツの推進は「する 見る 支える」のスポーツの基本にそって、課題を見つけ解決するものである。

甲子園があり、タイガースがありスポーツ環境は万全である。

アスリートや団体を招へいしたり、派遣したりすることでスポーツに興味を持たせ、スポーツへの興味や競技に対する気が変わる。それは、スポーツ振興に効を奏するものである。

スポーツが個人にとどまらず、官民をつなぎ地域活性化に資するものとなる。

生徒の部活動も、地域展開によって発展的なものになるとして、令和8年9月から平日／休日の一斉実施をすることとし、4チームと市とて協定が締結された。

スポーツは未来に続き、まちづくりにつながる。

スポーツ投資には勇気がいるが、未来に託すことから考えれば惜しくない。

(西行)

スポーツが描く新しいまちの景色

福井は、住みよさランキング2025では1位である。

スポーツを市長ビジョンの中心に置き、「福井ならではの」(奈良ではにかけた)ダンスプロジェクトとして 楽しい・安心・元気を掲げている。オープニングで披露されたダンスは、市内の高校生によるものであり全国的に高評価を得ている。ダンス大会にも常時入賞しているチームである。

ダンス行事は街中で楽しむイベントとして開催され、ダン☆スタFUKUIもその一つである。ダンスも多様であり、皆が参加できるように工夫した。さらに、今後まちなかをダンス一色にする展望を持っている。ダンスにキッチンカーを導入して、食との一体化も図っていく。

他のスポーツ行事として「ふくい桜マラソン」も参加者は約15,500人（毎年度）と高い評価を県内外から受けている。

[①ランナー満足度：89.4点 ②次回参加希望94%
加えてボランティア等のおもてなし評価も高い]

スポーツを通じた地域活性化を目的に、地元トップスポーツチームであるバスケットボール、サッカーと連携し、全庁的な連携事業がスタートしたところである。さらに今年度から、若者と連携して地元スポーツチームの魅力発信をしてアリーナ整備構想を進めていく。

スポーツをメンタルにも広げて、福井を 『楽しい 安心 元気なまち』 にしていく。

『第2会場』地域に密着した安心な福祉体制の在り方

〈コーディネーター〉 永井 裕子（福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科准教授）
〈コーディネーター〉 菊池 吉信（福井大学大学院工学系部門准教授）

〈パネリスト〉 柴橋 正直（岐阜市市長）
太田 稔彦（豊田市市長）
上定 昭仁（松江市市長）

『第3会場』[元気×イノベーション]～未来を創る地域づくり～

〈コーディネーター〉 南保 勝（仁愛大学人間学部コムにケーション学科特任教授
福井県立大学名誉教授）
〈コーディネーター〉 嶋田 浩昌（福井商工会議所 福井県経済団体連合会専務理事）

〈パネリスト〉 佐藤 孝弘（山形市市長）
初宿 和夫（八王子市市長）
後藤 圭二（吹田市市長）

(研修の様子)



大阪府八尾市

■調査項目

みせるばやおの視察

・調査対応者

魅力創造部 産業政策課 課長 後藤 伊久乃

議会事務局 議事政策課 主幹 菱井 正人

・調査期日

令和7年10月31日（金）午後1時から午後2時30分

・八尾市の概要（令和7年9月末時点）

人口：約25万人 面積41.72km² 世帯数：約12万9千世帯

・調査目的

「ものづくりのまち」として、呉市との違い等を学ぶ。

地場産業の歯ブラシは、幅広い用途の開発にどのように進化・発展させたを学び、課題を明らかにしていく

・調査内容

【みせるばやお からの説明】

・みせるばやおは、近鉄八尾駅前のリノアス8階ホール（約550m²、約166坪）のスペースにもものづくりのワザを魅せる場として、平成2017年11月に中小企業35社で地域貢献という大きな大義のもと、「魅せる場」の創造ということで出発した。

八尾市は、中小企業を中心に1200越えの製造事業所が集積する「ものづくりのまち」で、スマホ部品や自動車部品などを生産。地場産業の歯ブラシ生産第1位を誇るまちである。ものづくりの魂を次世代に伝えることは、「地域貢献」するとともに、八尾市の新たなものづくりのイノベーションにつながるということで、「魅せる場」をつくるという考えに立って2018年8月8日にオープンした。

・みせるは、「魅せる」「見せる」に通じると考え、来場者に楽しんでもらいながら『ものづくり体験ワークショップ』も開催した。

「八尾の町工場が・お店が・広場がパピリオン」

「みせるばマルシェ」

「ひらく、ひらく、世界に向けてひらく」

「まちのコインでまちの活性化」

「スタンプラリーで人集め」：現在2,500人と参加人数は増加している。

「つながるが楽しくなる」

「あなたに寄り添う、やお」

標語をどんどん現実のものとしていく。そのためには、中小企業が売り上げを伸ばし、市民にまちの発展を実感していただく。それは、中小企業の発展でしかない。

にぎわいのあるまちづくりは、行政・事業者・市民がそれぞれの立場で中小企業を支援していく方向を持ち続けるしかない。これは、八尾市中小企業地域経済振興基本条例の理念である。

運営と連携の必要性から「産官学」連携の強化を進めている。

今年度の動きは、

- ・教育現場へものづくりの魅力発信
子どもの（こんな施設があったらいいな を知る）
大学生を工場に招きランチ会を開催し会社の魅力を伝える
大学卒を残す
- ・同期会を開く
- ・外国へのアプローチ
- ・共創で新商品開発
- ・ネットショップ ― 近畿大学〈おみせ〉
- ・ブランド力向上
- ・やお製造品の整理
- ・人材確保
- ・万博出店（オープン ファクトリーシティ Y A0）：

当日万博出店した現物が展示されていた。なお 55,000 人の入場があったという。

これらの活動から課題を明らかにしていく

現実には、製造業企業数が 1981 年 5,033 ケ所から 2016 年には 3,075 ケ所に減っており、より新たな活動も視野に入れ多角的なプロジェクトを開催する。

今後は、『デジタル田園都市国家構想』『ネット利用』『友人を増やす』ことを進めるという

《行政と企業に壁がないことが強調された、後藤課長からの熱のこもった説明は、視察した私たちを圧倒した。》

【場内の商品を見る】

多くの商品は、魅力一杯で引き込まれていった。製品は、「消費者に寄り添う物である」ということであり、それが理解できた。

一つひとつの製品の工夫や思いに触れることで、今まで感じなかったものが、身近なものに変わり愛着が生まれるということを実感できた。

【呉市での展開の可能性】

ものづくりは、楽しいものだと実感できた。工夫によって進化をとげ、世界に発信できる力を持っていると思えた。呉市に展開できる商品があると思う。

- ・産業振興センターをもっとアピールして、市民に知らせ、より身近なものにしていく。
- ・施設とコラボする。
- ・視察を増やす

【ヤオ サンギョウナビ】～中小企業向け行政マガジンの発行～

・融資制度・相談窓口・事業経営者支援補助金・ものづくり集積促進奨励金・職業紹介所等掲載されている内容の濃いものであった。

【How to “MISERUBAYAO”】の紹介

中小企業「みせるばやお」のトリセツには

- ① “シェアリング” から生まれる“イノベーション”
- ② メリット別に多角的なプロジェクトを展開中！
- ③ 現座活動中のプロジェクト事例の紹介が掲載されている

(視察の様子)

